

令和7年度 学校運営に関する学校評価を受けて

東根市立第三中学校
校長 竹内 齊

本校教育活動（学校経営の重点項目など）に対する保護者アンケート及び生徒アンケートの結果を受けて、本校学校運営についての自己評価を行いましたのでお知らせいたします。お寄せいただいた御意見を、次年度の教育活動に生かすとともに、本校教育活動のさらなる充実を図ってまいります。ご協力ありがとうございました。

◆視点1：学習・授業にかかわること

4 よくあてはまる 3 ややあてはまる 2 あまりあてはまらない 1 ほとんどあてはまらない

※保護者・生徒とも無記名での回答です。 数字 = 上段：保護者（%） 下段：生徒（%）

問	質問内容（生徒にも保護者と同じ内容の問いかけをしています。）	4	3	2	1	4と3の割合
1	お子さんは、授業に主体的に取り組んでいると言っている。	38	43	16	3	81
		57	35	8	0	92
2	お子さんは、授業中、自分の考えを発表したり、互いの意見を交換したりして、自分の考えを深めることができたと言っている。	27	48	18	7	75
		45	48	5	2	94
3	お子さんは、授業はわかりやすく、自分の力を伸ばすことができると言っている。	18	46	30	7	64
		47	43	10	0	90
4	お子さんは、授業の予習や復習、苦手分野の克服など、目標を持って家庭学習に取り組んでいると思う。	20	43	30	7	63
		39	45	14	2	84

【今年度の取り組みや評価について】

◇今年度の取り組み

- ・ 生徒用 GIGA 端末 PC や電子黒板など、日常的な ICT の活用による授業づくりの実践。
- ・ ティームティーチングや生徒の要望を把握した習熟度別少人数授業の取り組みの実施（数学、英語等）
- ・ 自ら学ぶ主体性を育成するための興味・関心を高める教材の吟味と課題解決の見通しが持てる指導過程の工夫。

◇生徒の実態やアンケート結果より

- ・ 生徒は、授業に主体的に取り組んでいると考えており、意見の交流を通して学びを深めることができていると感じている。授業後においても、授業の内容にかかわる内容を話していたりする姿も見られる。
- ・ 授業がわかりやすく意欲的に取り組んでいる生徒の割合は高く、授業の予習や復習、苦手分野の克服など、学習の目標を持って家庭学習に取り組むことができていると感じている。
- ・ 授業や家庭学習への取り組みについて、どの項目においても生徒の数値よりも保護者の数値が大きく下降しており、授業と家庭学習とのつながりを意識して指導する必要がある。また、生徒一人ひとりの力を伸ばし、個々の学びの成果を保護者と共有できるようにする必要がある。

【今後の方針や具体策について】

- ・ 生徒にとって必要感のある課題設定と興味・関心を引く教材研究を心掛け、生徒が自分事として学べる授業づくりを推進していきます。
- ・ 指導と評価の一体化を図る授業改善により教師の指導力向上に力を入れていきます。そのために、研修と校内研究の充実を図り「授業を核にした学校づくり・学校経営」を推進していきます。
- ・ 生徒一人ひとりが、わからないこと、できないことをそのままにせず、解決するまで取り組めるように教師がコーディネートする授業づくりを心掛けていきます。
- ・ 授業の予習や復習、苦手分野の克服など、家庭学習に目標を持って取り組めるように、授業、終わりの会で指導していきます。また、学習の成果や様子を保護者と共有し、学校と家庭の連携を図ることで、生徒の学びを支援できるようにします。

◆視点2：学校生活等にかかわること

上段：保護者（％） 下段：生徒（％）

問	質問内容	4	3	2	1	4と3の割合
5	お子さんは、学校に楽しく登校している。	46	36	11	7	82
		60	30	8	2	90
6	お子さんは、自分の学級は居心地がよいと言っている。	38	41	12	9	79
		56	34	8	2	90
7	お子さんは、学級の係活動や専門委員会、生徒会活動に積極的に取り組んでいると思う。	61	30	2	7	91
		60	30	10	0	90
8	お子さんは、学校のきまりや服装、時間等をきちんと守り生活していると思う。	54	36	11	0	90
		58	42	0	0	100
9	お子さんは、部活動・地域クラブ・自主学習など、放課後は充実した時間にすることができていると思う。	47	39	7	7	86
		65	35	0	0	100

【今年度の取り組みや評価について】

◇今年度の取り組み

- ・ 生徒会活動や学校行事を「生徒が自分たちで企画し、自分たちで運営する」ことによる達成感や自己有用感を味わえるような指導と支援。
- ・ 定期的な教育相談、自己生活アンケートの実施とその記述内容に対する即時対応を心がけた生徒に寄り添った指導。教職員全員で生徒を見守る温かい生徒指導の構築。
- ・ 「部活動方針」の啓発及び方針（国・県・市・本校）に基づく活動の実践と、部活動の地域以降化に伴う改革。
- ・ 暑熱対策を考慮した夏の制服、運動着のきまりの運用開始。

◇生徒の実態やアンケート結果より

- ・ 生徒は、ほぼすべての項目で高い数値となっている。アフターコロナに伴って制限から解放された学校行事、生徒会活動、学級活動により、心豊かに前向きに学校生活を過ごせている。
- ・ 楽しく学校に登校することができていると感じている生徒、保護者の割合が高いが、その一方で楽しく登校することができていないと感じている生徒と保護者もいる。自分の学級の居心地のよさについても同様の傾向がある。
- ・ 全校生が部活動任意加入制としての入学となり、部活動に所属していない生徒が大幅に増加している。その反面、外部のクラブチームに所属する生徒の活躍があったり、部活動に所属しない生徒や部活動引退後の3年生が部活動時間帯に本校のラーニングセンター（スイート）で学習したりするなど、生徒の自主的な姿も見受けられた。
- ・ 学校のきまりや服装、時間等については、生徒だけでなく保護者からも学校に確認いただくこともあり、しっかり守っていかうとする雰囲気強い。きまりや時間を守る等の規律面に関しては数値が高いが、生徒が安全・安心して生活していくためには、さらに伸ばしていく必要がある。

【今後の方針や具体策について】

- ・ 生徒会活動や学級活動に力を入れ、生徒自らが自分たちの学校をよりよくしていこうとする自治力の育成に努めます。そのため、企画・立案から生徒自らが行えるよう話し合いや活動の時間を確保するため、教育課程編成の工夫を行います。また、その生徒の取り組みの様子を保護者に適時発信し、理解いただくことにも努めます。
- ・ 安全・安心な環境を作るため、教師も一枚岩の指導で当たっていけるよう、気づいたことについての細やかな情報交換や適宜打ち合わせを持つなど、即時対応に心掛けます。また、生徒一人一人の声にしっかりと耳を傾け、寄り添う気持ちを大切にしていきます。
- ・ 今年度より、夏の制服、運動着を見直し、ルールを確認して暑熱対策を進めました。生活のきまりについては、今後とも時代にマッチしたものになっているか、適時見直しを行っていきます。
- ・ 部活動改革により、令和8年度には休日部活動地域展開が全面実施となります。市や本校の部活動の方針、それに伴う周知を丁寧に行うとともに、部活動とクラブチームとの連携もより適切に図っていくことを目指します。

◆視点3：教育相談・コミュニケーションにかかわること

上段:保護者(%) 下段:生徒(%)

問	質問内容	4	3	2	1	4と3の割合
10	お子さんは、先生方が話をよく聞いてくれたり、相談に乗ってくれたりしていると言っている。	36	45	19	0	81
		63	32	5	0	95
11	お子さんは、努力したことやよい点を先生方が認め、正しく評価してくれると言っている。	39	43	18	0	82
		63	34	3	0	97
12	お子さんは、道徳や学級活動、総合的な学習の時間や講話等で、生き方や将来のことについて考えることができたと言っている。	27	53	18	2	80
		41	54	5	0	95
13	お子さんは、家庭での来客や地域の方々に対して、自ら進んであいさつができています。	41	50	7	2	91
		68	30	2	0	98

【今年度の取り組みや評価について】

◇今年度の取り組み

- ・ 毎月1回の「自己生活アンケート」を通して情報収集に努め、生徒の思いを教職員間で共有し、教育相談を迅速かつ継続的に実施。
- ・ 「いじめ防止基本方針」に基づく指導実践。いじめにつながる言動への組織的対応と家庭との連携を重視（いじめに関する調査の年2回実施）。
- ・ 毎朝の生徒会生活委員会によるあいさつ運動。職員による朝のあいさつ活動。
- ・ 校長講話を実施し、その感想を各学年代表が全校集会で発表。
- ・ 企業訪問、職場体験、上級学校訪問、修学旅行等の行事、外部講師による講演
- ・ 東郷小、高崎小への生徒会役員主体の訪問あいさつ運動の実施。
- ・ 三中校区のあいさつ標語の生徒会、児童会を中心とした見直し。

◇生徒の実態やアンケートの結果より

- ・ 教職員の生徒に対するかわりに肯定的な考えの生徒の割合は非常に高く、学校として大きな励みになっている。保護者にも学校での活躍が伝わるよう、家庭と学校の連携をより緊密に行う必要がある。
- ・ 地域への思いが強い生徒たちであるため、地域に対するあいさつについては、例年高い数値が出ている。また、毎朝のあいさつ運動に取り組んできた結果が少しずつ表れてきた。アフターコロナで様々な制限の解除が影響してきることもあるのか、年々数値が上昇してきている。
- ・ 進路学習については、1学年から生徒だけでなく、保護者に対しても情報発信を行い、見直しをもって取り組んでいけるよう努める必要がある。

【今後の方針や具体策について】

- ・ 計画的な教育相談だけでなく、生徒との日常的な対話を通して「思い」や「心配なこと」を積極的に聴き取り、ともに解決にあたっていける関係性を築きます。
- ・ スクールカウンセラーによる面談やカウンセリングだけでなく、全校生や各クラスを対象としたスクールカウンセラーの講話を適切な時期に実施することを通して問題発生未然防止を図っていきます。
- ・ 生徒の「困り感」を家庭と共有し、直接話し合っ即時対応をしていきます。家庭訪問や三者面談で保護者と担任がしっかり顔を合わせ、情報共有できる関係を築けるようにします。
- ・ 学校で学んだことが社会でどのように役に立つのかを実感できるよう、職場体験、企業訪問、上級学校訪問等の学校外での教育活動も重視し、キャリア教育の充実に努めていきます。また、その学びの過程を、保護者にも発信していきます。
- ・ 進路指導の充実に向け、生徒・保護者対象の進路説明会を1学年から計画的に実施していくことを重視していきます。また、山形県公立高校の入試制度が令和8年度入学生より大きく変わっているため、生徒、保護者への情報提供を丁寧に行っていきます。
- ・ 今年度、生徒会・児童会が中心となって見直した「三中校区のあいさつスローガン」を基に、あいさつが飛び交う学校で生活するよさが実感できるようにします。さらに、自分達の力でよりよい学校をつくり上げたという達成感を味わわせるよう、そのためのプロセスも大切に指導します。

◆視点4：家庭・地域・環境にかかわること

上段：保護者（％） 下段：生徒（％）

問	質問内容	4	3	2	1	4と3の割合
14	学校（学年・学級）は、家庭や地域に、学校の取り組みや生徒の活躍の様子について、お便りやマ・メール、ホームページ等でよく伝えていると思う。	45	50	3	2	95
		52	45	3	0	97
15	親として、学級通信や学年通信、学校通信等をよく読んでいる方だと思ふ。	32	47	14	7	79
		52	40	8	0	92
16	学校の環境が整備され、子どもは生活しやすいと思う。	50	38	7	5	88
		55	42	2	1	97
17	お子さんは、パワーアップ週間を中心に、「早寝・早起き・朝ごはん」が実践できている。	21	47	25	7	68
		29	47	23	2	76
18	お子さんは、スマホやインターネットを利用する時、家庭で決めた約束事（使用時間やフィルタリング等）を守り、適切に利用していると思う。	14	32	41	12	46
		52	37	10	1	89
19	学校行事等は、暑さ対策、休日活動の地域展開、感染防止対策を行いながら、できることを工夫して実践できていると思う。	54	44	2	0	98
		61	36	3	0	97
20	学校は、家庭や地域、小学校等と連携し、活動していると思う。	50	43	7	0	93
		55	37	6	2	92
21	学校は、教員の働き方改革(教職員勤務勤務時間 8:10-16:40)を意識し、授業時数の確保、学校行事の精選、休日部活動の地域展開など、教育課程の見直しを進めていると思う。	52	46	2	0	98

【今年度の取り組みや評価について】

◇今年度の取り組み

- ・ 月1回、学校だより「協育」の発行と学校ホームページ更新の日常化。
- ・ 学年だより、学級だよりの発行。
- ・ 携帯メール連絡網「マメール」による学校の判断事項や協力依頼、生徒たちの活動の様子などの配信、外部団体からの情報のタイムリーな共有。
- ・ 「パワーアップ(生活習慣コントロール)」週間を、定期テスト前の学習強化期間の年4回設定。
- ・ 校医・学校歯科医・学校薬剤師の声を反映した学校保健委員会の実施。
- ・ 県警本部からの講師による生徒と保護者対象のメディアに係る講演会の実施。

◇生徒の実態やアンケート結果より

- ・ ホームページや携帯メール連絡網「マメール」での情報発信に力を入れたことで、保護者の数値は昨年度よりもさらに数値が上昇している。
- ・ 「早寝・早起き・朝ごはん」の生活習慣について、生徒、保護者共に低い数値となっている。
- ・ スマートフォンやインターネットを適切に利用していると回答した生徒が9割弱であるのに対し、保護者は昨年より数値は向上しているものの半数以下となっている。保護者と生徒の捉えに大きなギャップがあることが課題である。
- ・ 学年が進むにつれて地域でのボランティア活動に積極的に参加する生徒が増加しているが、地域とのつながりについてはまだ課題が残る。教育環境、教育資源に恵まれた地域であることを念頭に、学校や学年の行事などにおいてもより地域を活用できる取り組みが必要である。

【今後の方針や具体策について】

- ・ ホームページの更新を常時行い、生徒の様子を発信できるように努めていきます。携帯メール連絡網「マメール」を活用し、学校からのお知らせも適宜発信していきます。
- ・ 「早寝・早起き・朝ごはん」の生活習慣づくりについて、三中校区の三校で連携をするため、「三中校区しこたん校友会」で共通の話題にして指導と啓発を継続していきます。また、家庭とも連携して子ども達のよりよい生活習慣づくりに努めていきます。
- ・ メディアとの付き合い方について、警察等と継続して連携し、必要な講話等を企画します。
- ・ 生徒たちが地域に貢献していく活動を検討し、公民館の行事とも関連付けながらつながりを深めていきます。

◎2月19日(木)に実施いたしました第2回学校運営協議会において、以下のようなご意見を賜りました。

学校運営協議会(第2回)

日時：令和8年2月19日(木) 10:00~12:00

委員・事務局のメンバー

学校運営協議会 会長	菅原 真 氏
学校運営協議会 副会長	名和 等 氏
学校運営協議会 委員	奥山梅太郎 氏
学校運営協議会 委員	大江 邦男 氏
学校運営協議会 委員	清野 安子 氏(欠席)
学校運営協議会 委員	遊佐久美子 氏
学校運営協議会 委員	武田 恵子 氏
学校運営協議会 事務局 校長	竹内 齊
教頭	武者 博雄
教務主任	板垣 広明

- ・全般的に良い結果であると捉えられる。授業がわかり、相談できる環境があり、学校が楽しいと見える。日頃の教師の生徒対応がこの状況になっていると考えられるのでありがたい。
- ・自己肯定感の高さが感じられる。のびのびと学校生活を送っているように見える。
- ・就寝時間、スマートフォンの使用に課題が見られる。生徒と保護者の意識の差が大きいことに注目したい。夏のしこたんセミナーで、親子で警察の方の講話を聴いたが、今後も継続して注意喚起をしてほしい。
- ・「早寝、早起き、朝ごはん」は、全国的にも難しい課題である。大人にも課題がある。基本的な生活習慣の定着を図ってほしい。早寝をすることが特に重要ではないか。
- ・部活動の地域展開の理解に関して、保護者は理解できていない面があったり、悩みがあったりするのではないかと考えられるので、今後も市との連携は必要である。部活動やスポーツクラブは任意加入となり、日常的に運動をしない生徒も増加し、体力に影響が出てくる懸念はないか。部活動やその他の活動で、伸び盛りの時期に体を作ってほしい。
- ・体育祭では生徒が主体的に活動していた。少人数だからこそできることもあったと感じた。
- ・地区行事への中学生ボランティアの参加が定着してきており、ボランティアの受け入れがシステム化してきている。小学校区を超えたボランティアの参加もあり、とても助かっている。地域の住民が中学生と接する機会ともなっているため、ボランティアは今後も続けてほしい。
- ・何年か地域と連携したSNSの活用指導や薬物乱用防止教室を中学3年生対象に実施しているが、下学年からの注意喚起も大切にしていける必要があるのではないか。いじめがあった場合の対応については、生徒にもしっかりと伝えていく必要がある。
- ・学校評価の数値については、経年変化に注目したり、質問内容による数値の高低の標準的な程度を加味したりしながら結果について考察を進める必要があると考えられる。
- ・いじめの状況やモンスターペアレントの存在、カスタマーハラスメントに該当する事案等、教育界では心配な情報も目にする。先生たちの心身の健康こそが、生徒への最も有効な教育手段であり、学校の教育力につながる。三中でも教職員の健康に留意してほしい。
- ・学校運営委員会で、生徒会長、副会長と直接交流の場もち、生徒たちが自分の言葉で目標とすることや、三中の分析を伝えることができていると感心した。今後も一人一人の個性が認められる少人数の学校よさを大切にして、全員で成長してほしい。

※今年度からスタートした学校運営協議会では、本校の運営について評価いただき、励ましの言葉を多数頂戴しました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。